令和５年度黒部市子ども・子育て会議
議　事　要　旨

■日時・場所
日時：令和５年９月６日（水）　10：00～11：05
会場：黒部市役所　202 会議室

■出席者
谷島委員（会　長）（黒部市自治振興会連絡協議会（東布施自治振興会長））
開沢委員（副会長）（黒部市民生委員児童委員協議会（児童専門委員会委員長））
片岡委員（さくら幼稚園 PTA）
中村委員（黒部市保育研究会会長）
廣田委員（さくら幼稚園園長）
島田委員（黒部市市民福祉部長）

関係課　市民福祉部長次長・健康増進課　　福澤課長
〃　　教育委員会事務局次長・学校教育課　小倉課長

事務局（こども支援課）浦田課長、若林主幹、新保課長補佐、水島係長

■次　第
１　開会
２　協議
（１）第２期子ども・子育て支援事業計画　令和４年度実績について　（資料１）
（２）子どもの貧困支援体制の進捗状況について　（資料２）
（３）東布施保育所の休所について　（資料３）
（４）保育所等の定員について　（資料４）
３　その他
４　閉会

■配布資料
・資料１－１、１－２：第２期黒部市子ども・子育て支援事業計画　事業実績
・資料２　：子どもの貧困に関する指標と実績
・資料３　：東布施保育所の休所について
・資料４　：保育所等の利用定員の設定について

■議事要旨
１　開　会

２　協　議
　黒部市子ども子育て会議設置要綱の第六条第１項により会長が議長となり、議事を進行する。

（１）第２期子ども・子育て支援事業計画　令和４年度実績について
　事務局より資料１－１、１－２により説明（省略）

＜質疑応答＞
（委員 A）　市は、１年間でこれだけ多くの事業を実施していることに改めて感心した。しかし、事業実績は出ているが、まだ市の取組を知らない人やどこに相談したらよいか分からない人もいる。そうした人の把握や情報を周知することは非常に難しい。なかには、自分の困っている状況を隠そうとする人もいる。そうした中で、本当に困っている人にどうやって手を差し伸べるかが重要だ。

（会　長）　市は一生懸命取り組んでいるが、家の悩みや恥を外に漏らすようなことはするなという考え方もあり、自ら助けてと言えない人もいる。そうした人に対して、みんなで手を差し伸べられるような雰囲気を作り上げることが大切だ。
　周りからのサポートや協力を受けられる体制、つまりは、人間関係の輪を広げなければ、住みやすい地域にはならない。
　取り組んでいる事業をもう少し上手にＰＲし、人間関係の輪を広げ、自ら助けてと言えない人にも支援の手が届くように、こども支援課の力の試しどころだと感じた。

（２）子どもの貧困支援体制の進捗状況について
　事務局より資料２により説明（省略）

＜質疑応答＞
（委員 A）　８番の三世代同居率に関連して、３世代同居を増やすような施策は出来ないか。３世代同居によって、祖父母から様々なことを教えてもらい、また次の世代に伝えることができる。

（事務局）　３世代同居を促進する施策としては、資料１－２の事業 NO.２に掲載している「３世代ハッピーホームサポート事業」を実施している。この事業は、３世代同居・近居を開始するために必要なリ

フォーム工事費に対して助成する「リフォーム補助金」と、保育所に預けず、祖父母が家庭で孫を養育することを促進する「孫守り支援補助金」がある。全 100 事業のうち、三世代同居を促進する事業は、この事業だけであり、他にどのような方法が良いか検討したい。

（３）東布施保育所の休所について
事務局より資料３により説明（省略）

＜質疑応答＞
（委員 A）　廃止ではなく休所ということは、東布施地区に新興住宅団地ができるなど、子どもの数が増加した場合に再開できる可能性を残すために廃止にしないという理解でよいか。

（事務局）　すぐに廃止にする予定はない。一旦休所し、地域の状況の変化等を確認のうえ、廃止等を検討する流れになる。

（４）保育所等の定員について
事務局より資料４により説明（省略）

＜質疑応答＞
（委員 B）　資料１－１では、昨年度の 0 歳児の受入実績が 148 人となっているが、資料４の一番右下にある定員の合計が 88 人となっている。来年度は、88 人の受入体制しかとれないのか。

（事務局）　来年度の利用定員は、4 月 1 日時点の利用定員を記載している。待機児童解消のために、利用定員を超えても受入できるという制度で運用する予定である。これによって、4 月 1 日は、利用定員を超える受入はできないが、年度途中の受入は可能であり、資料１－１に記載した計画値 208 人は、入所できる体制を確保している。

３　その他
（１）協議事項全般に関する意見や感想について
会長が協議事項全般について、意見や感想を求める。

＜発言内容＞

（委員 C）　元気な子どもが育つ幼児教育を目指している。会議に出席して、多くの施策があることを知った。自分たちも子ども達を支えていることを再認識し、様々なサポート体制があることも理解しながら、保護者に還元できるようにしたい。

（委員 D）　東布施保育所では、地元の子どもが東布施保育所に入所してもらえるように地区と一緒に頑張ったが、保護者の仕事の都合もあり、入所が増えなかった。黒部市の中でも徐々に子どもの数が少なくなっている地区も出てきている。そうした地区でも、きめ細やかな支援が行き届くような黒部市になると、もっと住みよくなると思った。

市は 100 事業も行っていることに驚いた。今後も子ども達が元気に成長できるよう努力したい。

（委員 E）　上の子どもも幼稚園に通っていた。子どもが減り、行事も減り、私立の保育所やこども園に行く人が増え、幼稚園に通わせる保護者が減ってきている状況である。

（会　長）　この会議を通じて、子ども達を支援するために多くの事業が実施されていることが報告された。広く市民に活用していただけるようＰＲしたい。

（２）事務連絡について

事務局が事務連絡を行う。

・委員の任期満了後の改選については、会長と協議のうえ、令和６年４月１日からの２年間とする。

・現計画が令和６年度末で終了することに伴い、来年度から第３期子ども・子育て支援事業計画策定に係る審議を開始する。国は、年内にこども家庭支援に関する３つの大綱を一元化した「こども大綱」を策定する予定である。本市の次期計画についても、市のこども家庭支援に関連する計画をまとめた計画とすることを検討しており、今年度からアンケート等に取り組む予定である。

＜質疑応答＞　なし

４　閉　会